

9月25日正午必着

明石春浦先生書



古墨輕磨滿几香。硯池新浴照人光（趙子昂）

軽く古墨をすると机上に香気が満ち、硯池にたたえた水は光を反射させている。

西 墨濤先生書



夜半樟亭驛 愁人起望鄉
月明何所見 潮水白茫茫

（白樂天）

樟亭駅は杭州の銭塘江畔にあつて、観潮の名所樟楼あり。愁人は旅人、ここでは作者。作者が杭州の役人時代の作か。白茫茫―月光にかすむ。故郷は遙か、望むに由ない。眼前ただ月明に白茫茫たる水面あるのみ。

見白氏長慶集歳在庚子南呂坐○齋偶試春浦筆書此

（白氏長慶集に見る、歳在庚子8月、○齋に座し、偶ま春浦筆を試みて此れを書す）

明石幸子書



細草幽蘭秋徑馥、清風明月夜窓虚（胡居仁）

馥は香る。径は庭のこみち。庭のこみちには秋の草々や蘭が香り、静かな窓へには清風明月がおとずれる。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

秋山紅樹多（韋應物）

秋山紅樹多し

夕陽また照らして美しさをましている。

明月照高樓、流光正徘徊
上有愁思婦、悲歎有餘哀

（曹植）

明月高樓を照らし、流光正に徘徊す
上に愁思の婦有り、悲歎餘哀有り

明月は高樓を照らし、流れるが如きその光はさまようかのようである。高どの上には憂いに沈む婦人がおり、悲しみ歎いて尽きぬ哀れさがある。

夜泊淮陰（項斯）

夜淮陰に泊す 項斯

夜入楚家煙、煙中人未眠
望來淮岸盡、坐到酒樓前
燈影半臨水、箏聲多在船
乘流向東去、別此易經年

夜楚家の煙に入る、煙中人、未だ眠らず
望み来つて、淮岸尽き、坐して到る、酒樓の前
灯影、半ば水に臨み、箏声、多く船に在り
流れに乗じて東に向かつて去る、此を別れて

年を経易からん

とぎたての小刀もて割る青林檎、淡き句も初秋にして（尾上柴舟）

半紙部規定課題A

9月25日正午必着

寒 宵 頻
夢 端 止

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

9月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



ここ楚の地の人々が竹枝を歌うのをきけば さすらいのこの身、涙はこぼれて衣をぬらす
 異郷にながく旅寓し 寒い夜、しきりに故郷に帰る夢をみる
 一通の手紙を送ったが、返事も来ないうちに 数知れぬ木々の葉はすっかり飛び散ってしまった
 これより南へ向かい、洞庭湖を過ぎて行けば 故郷のたよりはいつそ稀になるにちがいない

客中

于武陵

楚人歌竹枝

游子淚沾衣

異國久爲客

寒宵頻夢歸

一封書未返

千樹葉皆飛

南過洞庭水

更應消息稀

客中

于武陵

楚人 竹枝を歌い

游子 涙衣を沾す

異國 久しく客と為り

寒宵 頻りに帰るを夢む

一封の書 未だ返らざるに

千樹 葉皆な飛ぶ

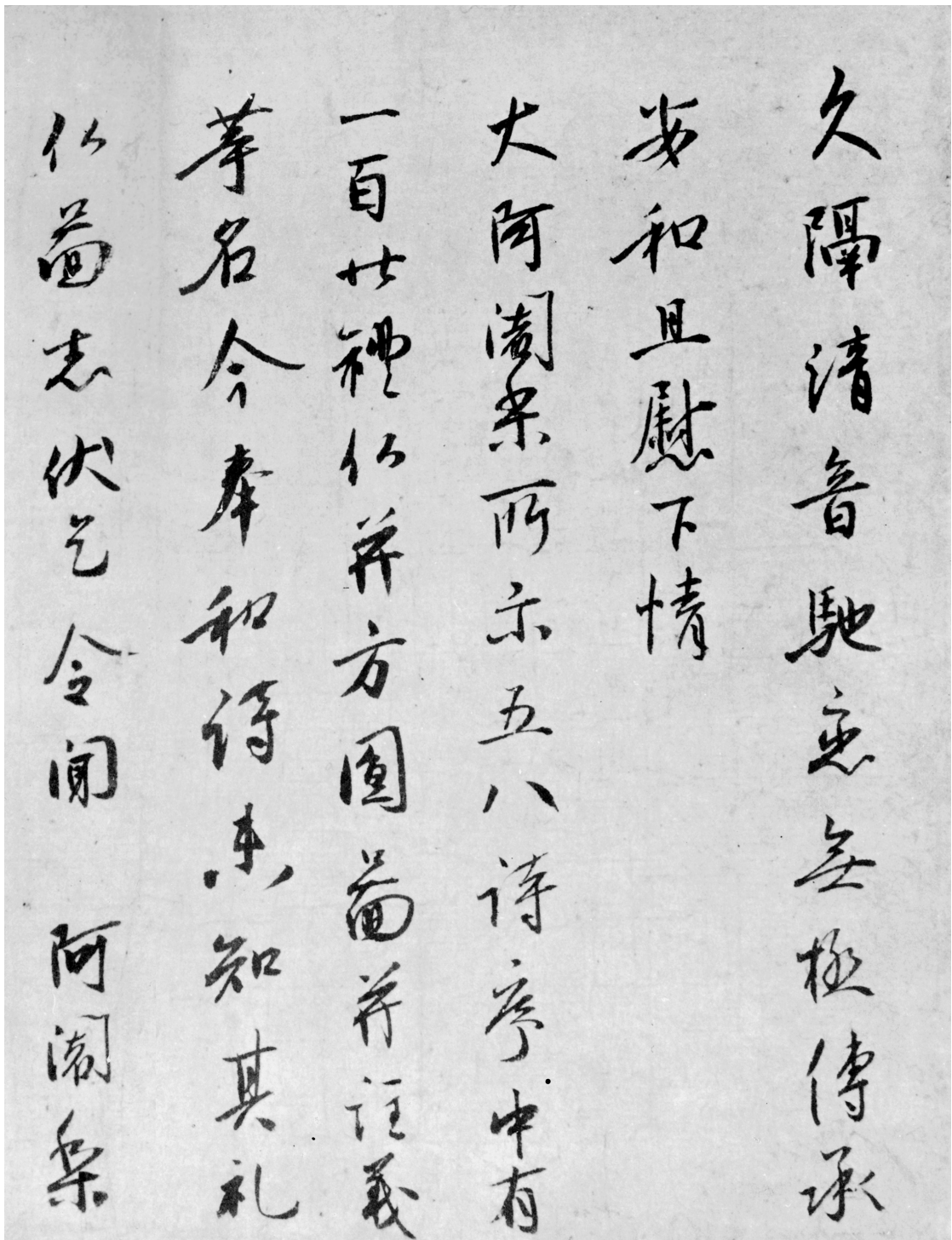
南のかた洞庭の水を過ぐれば

更に応に消息稀なるべし

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より



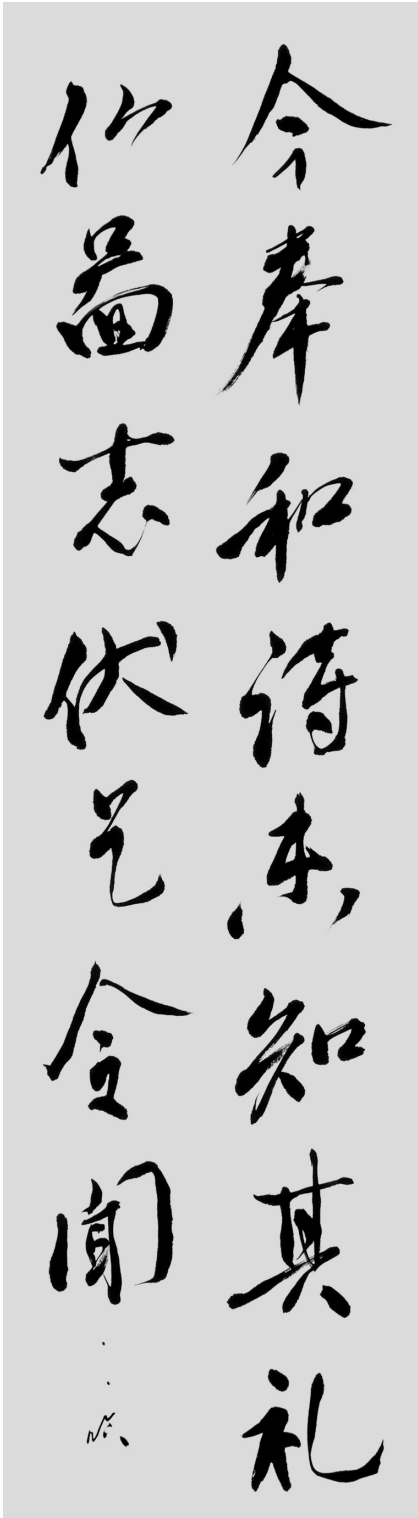
久隔清音。馳戀無極。傳承安和且慰下情。

大阿闍梨所示五八詩序中。有一百廿禮佛并方圓圖并註義等名。今奉和詩。未知其禮佛圖者。伏乞令聞阿闍梨。

久しく清音を隔て、馳恋極まり無し。安和を伝承し、且く下情を慰む。大阿闍梨示す所の五八詩序の中に、一百廿礼仏并びに方圓図并びに註義等の名有り。今和詩を奉らんとするに、未だ其の礼仏図なる者を知らず。伏して乞うらくは、阿闍梨に聞か令めんことを。



今和詩を奉らんとするに、未だ（其の礼仏図なる者を知らず。）



今和詩を奉らんとするに、未だ其の礼仏図なる者を知らず。伏して乞うらくは、阿闍梨に聞か令めんことを。

平安 最澄・久隔帖

最澄は、近江滋賀郡の人で十二歳で仏道に入り、天台大師を景仰し経籍を研めることが深かった。延暦二十三年（八〇四年）遣唐使が派遣され、この時最澄をはじめ空海・橘逸勢も随従し入唐した。最澄は天台の奥義をうけて秘典を授けられ、密教を学び翌年に帰朝した。合わせて、晋唐の書法や多くの名跡が将来されたため、書に新生面を開き、千古に伝うべき能書家を輩出する源となった。

この久隔帖は状首に、久隔清音の句があるためにこの名がある。弘仁四年（八一三年）十一月二十五日、空海のもとにいる最澄の弟子、泰範に宛てた書状である。現在知られる彼の尺牘（手紙）としては唯一のもので、内容は、空海が贈られた詩の序にみえる法身礼図並びに大意について問い合わせ、更に法華梵本一巻を貸与せんことを書き添えたものである。

筆致は清浄純雅、気品の高い書であり、「集字聖教序」（王羲之）を習ってきたことは誰もが認めるところである。天台宗の宗祖らしい高い澄徹した美しさを感じられる。

（春廣）

9月25日正午必着

教育部毛筆



雨宮春聲先生書

こく

もつ

中学一年



菅井松雲先生書

ぎょく

る

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

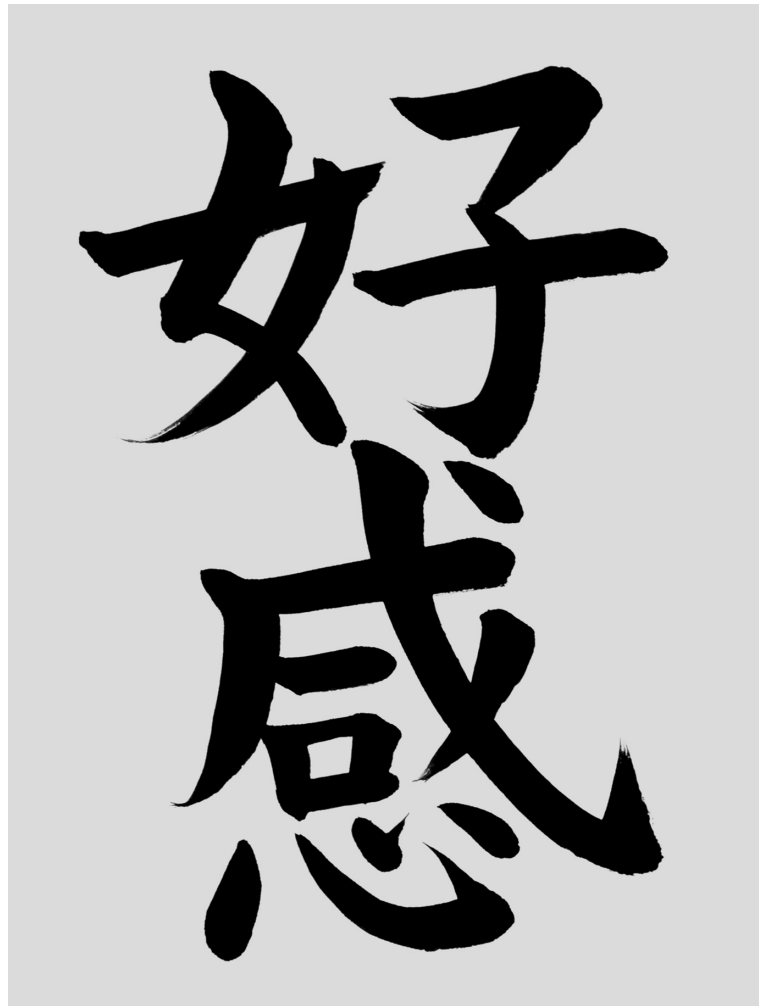


せき
責

にん
任

小学五年

榎戸春龍先生書



こう
好

かん
感

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着



しゅ
社

かい
会

小学三年

藤田幸春先生書



か
果

じつ
実

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ま る 小学一年・幼年



森戸春濤書

いり ぐち 入 口 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

な小魚の楽園です
海ていは色あざやか

小学五年

秋分の日は昼と夜の
長さがほぼ同じです

小学六年

因習にとらわれず新
しい生き方を考える

中学

雲の切れ間よりさす光に
大地の草木がよみがえる

一般(級位)

み山路やいつより秋の色ならむ
見ざりし雲のゆふぐれの空(慈 圓)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

| | |
|---|---|
| な | ま |
| ま | る |
| お | い |
| つ | |
| き | お |
| さ | お |
| ま | き |

幼年

| | |
|---|---|
| し | あ |
| い | し |
| え | た |
| ん | は |
| 足 | |
| で | た |
| す | の |

小学一年

| | |
|---|---|
| へ | 鳥 |
| も | た |
| ど | ち |
| つ | が |
| て | 森 |
| い | の |
| く | す |

小学二年

| | |
|---|---|
| は | こ |
| 十 | と |
| 月 | し |
| 一 | の |
| 日 | 十 |
| で | 五 |
| す | 夜 |

小学三年

| | |
|---|---|
| に | 風 |
| 雨 | が |
| 戸 | 強 |
| を | い |
| し | の |
| め | で |
| た | 早 |
| | 目 |

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

あかとき
可支本
ほし輝
支きて
くろぐと
富士の
いたぐ
支きめ
免の上
二に見
遊ゆ

あかとき
可支本
ほし輝
支きて
くろぐと
富士の
いたぐ
支きめ
免の上
二に見
遊ゆ

あかとき
可支本
ほし輝
支きて
くろぐと
富士の
いたぐ
支きめ
免の上
二に見
遊ゆ



あかとき
可支本
ほし輝
支きて
くろぐと
富士の
いたぐ
支きめ
免の上
二に見
遊ゆ
(古泉千樫)

岩本景楓先生書